

障害から、いつどのようにリカバリーした？

～リハ工学がもたらす可能性～

兵庫頸髄損傷者連絡会 島本 卓

1. はじめに

2017年8月に3日間で開催された、「第32回 リハ工学カンファレンスin神戸」に実行委員として参加しました。自身初となるオーガナイズドセッションを企画し、オーガナイザーも務めました。企画への思い、当日の様子を報告します。

2. オーガナイズドセッション概要

「障害を負っていなければ、人生の選択肢が制限されることはなかった」との思いに苦しむ人や障害により出来るはずだった日常生活にも支障をきたし、多くの課題を抱えている障害当事者も少なくない。本セッションでは、多くの障害者が、「自分らしく、人生を楽しむ」ための情報やヒントを得ることを目的に、障害当事者の「自分らしく、人生を楽しむ」きっかけや、その中における福祉用具等の「リハ工学のちから」との関わりについて報告いただき、障害当事者から見たリハ工学の可能性や、リハ工学との関わり方について議論を行います。そして、多くの障害当事者に対し、「自分らしく、人生を楽しむ」ための「リハ工学」がもたらす可能性について、そのヒントを探ることを目的として企画しました。

3. 準備への思い

今回、初めてのことばかりで頭の中がいっぱいになりました。参加する方々がプログラムを見て、オーガナイズドセッションを聞きに行こうと思ってもらえるものを作りたい、ただそれだけを考え続けました。私が今までいろんなシンポジウムなどに参加してきた印象は、発表者の大半が男性だったことです。女性当事者の日常生活や就労のこと、さまざまなリカバリーのきっかけを発表してほしい。そこで発表者をすべて女性当事者で行うのはどうだろうか。この機会に、なんとかしても当事者、家族、各専門分野の方にきっかけの可能性を知ってほしかったのです。リカバリーを果たした5名が発表してくれることになりました。

4. 会場が熱く

オーガナイズドセッションの当日をむかえました。私が企画し、発表をお願いしたのに段取りの悪さで、全体打ち合わせは一度もできず、電話とメールでの確認だけでした。発表テーマも「障害者スポーツに挑戦」、「パラリンピックを目指す」、「アメリカ留学」、「住環境整備」、「大学生活」と興味をひかれるものばかりです。会場には100名以上も超える方が来てくれていました。熱い発表はアツという間に過ぎていき、会場からの質疑応答がとても多く、時間が足りないぐらいになりました(写1)。終了後、多くの参加者の方から「もっと聞きたかった」、「よかった」と言っていました。ありがとうございました。



(写1) オーガナイズドセッション発表の様子

5. まとめ

3日間を終えてみて、感じたことがあります。それは「障害が壁ではなく、思いが人を変えられること」です。私がリハ工カンファレンスで発表し続けるのは、障害者としてではなく、笑外者として情報発信をしていきたいからです。

次回、2018年8月29日(水)～31(金)に、厚木文化会館で「第33回リハ工学カンファレンスinあつぎ」が開催されます。新しい発見と繋がりを求め、ぜひリハ工学カンファレンスに参加してください。